

このパッケージをインストールすると GNU Common Lisp のコマンド・ラインで `bash` や `csh` 風のコマンド・ライン・ヒストリ機能が使えるようになります。後述するように `readline` ライブラリが備えていない機能も備えています。バージョン 8.0 からはキーボード・コマンドを自由に定義できるようになり Emacs モードに加え、vi モードも備えました。

また、今回のバージョン 9.1 では、バージョン 8.0 で削除したバッチ編集機能を拡張した上で復活しました。

バッチ編集で指定するコマンドもユーザが定義したコマンドで指定できるようになりました。したがって、Emacs 互換コマンド・モードであればバッチ編集コマンドも Emacs 互換コマンドで指定でき、VI 互換モードであれば VI 互換編集コマンドで指定できます。

編集コマンドのモードに関わらずバッチ・コマンドのコマンド・モードを明示的に指定することもできます。したがって Emacs 互換コマンド・モードで動作している際に VI 互換のコマンド形式で記述されたバッチ編集コマンドを使うこともできます。

以下に概要を示しますが、バッチ編集モードを含めた詳しい用法については `HowToUse.txt` をご覧ください。

デフォルトの Emacs モードの場合、たとえば、

```
[127]> (con
```

まで入力して `C-p` (または上矢印) をタイプすると、過去に入力した行のうち、

```
[98]> (cons '(a b) '(c d))
```

など、先頭が `"(con"` で始まる行を探索して表示します。`C-p` をタイプする毎に更に過去の入力に遡って探索します。

```
[76]> (concatenate 'string '(#¥a #¥b #¥c))
```

目的の行が表示された時点で単に<Enter>キーをタイプすれば、その時点で表示されている行全体が入力されます。探索に一致する行が多すぎる場合は、更に入力する文字を増やせば探索で一致する行を絞り込むことができます。たとえば、上の例で

```
[127]> (conc
```

と"c"まで入力していれば、C-p をタイプすると一挙に

```
[76]> (concatenate 'string '(#¥a #¥b #¥c))
```

が表示されます。探索に使用する文字は随時追加・削除できます。何も入力せずに C-p をタイプすれば入力履歴をひとつずつ遡って表示します。行過ぎてしまった場合は C-n をタイプする毎に逆順に入力履歴を表示してくれます。

行編集機能は Emacs に準拠していますが、Lisp 用であることを意識して S 式単位での移動(M-C-f)やカーソル前後の S 式の入れ替え(M-C-t)など、GCL 2.5.1 からサポートを開始した GNU readline ライブラリが備えていない機能も実装しています。

使用できる編集コマンドの一覧は !help および (help-edit)で一覧できます。

端末制御機能は xterm の制御機能のうち、カーソルを左右に移動する、カーソル以降の行を消去するなど、ごく少数の機能だけを使用しています。line-edit-pkg.lsp のソース・コード中で機種依存部分として分離してありますので、うまく動作しない場合は自分の使用している端末に合わせて変更してください。とは言え、Linux 系の OS であれば変更なしに動作すると思います。

カーソル移動や行削除などの機能を備えていない端末の場合は history-pkg.lsp を単独で使用します。この場合は Common Lisp の標準組み込み関数 ed を使ったヒストリ編集や

```
[127]> !76
```

で 76 番目のヒストリを実行するなど、端末制御機能を必要としない形式でのヒストリ機能が使用できます。

line-edit-pkg.lsp を単独で使用する場合は、行編集機能を備えた行入力関数として利用できます。大部分の端末入力で、標準関数の read-line を使うより行編集機能が使える分、快適です。

history-pkg.lsp と line-edit-pkg.lsp のインストール方法については

INSTALL.readme.jpn

を参照してください。

トップレベル・リードに加える変更のサンプルとして GNU Common Lisp 2.3.8-Beta ~ 2.5.2 に含まれるオリジナルの top.lsp に変更を加えたファイルを top.lsp.sample として添付してあります。このファイルをオリジナルの top.lsp と交換して GCL を make すると上述のヒストリ機能が使えるようになります。ただし、以下の 2 点も変更されています。

- ・初期設定ファイル中で「\*load-verbose\*」の値を変更できないので「init.lsp」の読み込み機能を抑止している（GCL 起動時の設定は gcl コマンドの「-load」で行う）
- ・空行の出力が最小になるように変更している。多値は空白で区切って 1 行に出力する。

ひとつのサンプルとしてご覧下さい。

以上。

p.s. バグ・レポートは歓迎します。宛先は daigo@tkf.att.ne.jp まで。  
なお、これらのプログラムは GPL に従いますので転載・変更は自由です。